

北海道高等学校教育相談研究会第 54 回研究大会開催要項

- 1 研究主題 「変化の激しい多様性の時代をしなやかに生きる力を育む教育相談を目指して」
- 2 目 的 北海道の高等学校における教育相談活動の発展に寄与する
- 3 主 催 北海道高等学校教育相談研究会
- 4 後 援 北海道教育委員会 札幌市教育委員会 北海道高等学校長協会
- 5 期 日 **令和 8 年（2026 年）1 月 9 日（金）**

受 付	開 会 式	全 体 講 演	昼食・休憩	研修講座Ⅰ部	研修講座Ⅱ部	閉 会 式
9:10 ～9:40	9:40 ～9:55	10:00～11:50	11:55 ～12:55	13:00 ～14:30	14:45 ～16:15	16:20 ～ 16:30

- 6 会 場 **かでる 2・7**（住所：札幌市中央区北 2 条西 7 丁目 電話：011-204-5100）

7 内 容

(1) 全体講演

演 題 「いじめ重大事態調査から見たことー危機対応を考えるー」

**講 師 東京理科大学 教育支援機構教職教育センター 大学院理学研究科科学教育専攻
教授 中 村 豊 氏**

〈経歴〉

公認心理師、学校心理士 SV、ガイダンスカウンセラーSV、学校カウンセラーSV
博士（教育学）

大学卒業後、公立小学校・中学校勤務後、関西学院大学文学部に転職、教育学部の設置に伴い移籍。その後、東京理科大学に再転職し現在に至る。

東京理科大学では教育支援機構教職教育センター副センター長として教職課程に係る研究と教育活動と大学院理学研究科科学教育専攻の科学教育理科コースを担当。初等中等教育における学校臨床に関する実践や研究の他、義務教育段階で苦戦してきた生徒の多い公立高校定時制や教育支援センターでのスクールカウンセラーとして相談業務に従事。

主な所属学会は日本学校教育相談学会（学会誌作成委員会、委員長）、日本特別活動学会（副会長）、日本生徒指導学会（全国理事）等。

〈単著〉

- ・『子どもの基礎的人間力養成のための積極的生徒指導 児童生徒における「社会性の育ちそびれの考察」学事出版、2013 年
- ・『子どもの社会性を育む積極的生徒指導』学事出版、2015 年

〈編著・共著〉

- ・『重大事態をどう防ぐ？ 事例とチェックリストでつかむ学校のいじめ対応の重要ポイント』第一法規、2024 年
- ・『養護教諭一知っておきたい保健と教育のキーワード』第一法規、2024 年
- ・『生徒指導提要：改訂の解説とポイント』ミネルヴァ書房、2023 年
- ・『Q&A 新生徒指導提要で読み解く これからの児童生徒の発達支持』ぎょうせい、2023 年
- ・『学校教育相談の理論・実践事例集 いじめの解明』第一法規、2019 年
- ・『新しい教職教育講座 教職教育編⑨特別活動』ミネルヴァ書房、2018 年・2025 年

いじめ防止対策推進法施行以降、多くのいじめ重大事態調査に関わってきた。いじめが重大事態化する端緒は、いじめを認知してから初期対応および平時の生徒指導にある。本講演ではいじめ重大事態調査の経験や調査報告書文献研究からの知見から危機対応を考える。

(2) 研修講座（選択）

研修講座 A（13：00～14：30） ※研修講座 1、3 から一つ選択	休 憩	研修講座 B（14：45～16：15） ※研修講座 2、3 から一つ選択
研修講座 1 「教師が取り組む教育相談の実際」 講 師：開善塾教育相談研究所 所長 藤 崎 育 子 氏		研修講座 2 「子どものもめごと解決スキル ー メディエーション ー」 講 師：北海商科大学商学部 准教授 益 子 洋 人 氏
研修講座 3（対面のみ オンライン配信なし） 「『チーム支援』に求められるファシリテーションの力 ー ホワイトボード・ミーティング®を活用したケース会議 ー」 講 師：北海道教育大学釧路校 准教授 田 中 雅 子 氏 ※ 研修講座 3 を選択した場合は、A と B を通しての受講となります。		

◇研修講座 1

講 義 「教師が取り組む教育相談の実際」

講 師 開善塾教育相談研究所 所長 藤 崎 育 子 氏

〈略歴〉

大学卒業後、韓国ソウル市の延世(ヨンセ)大学に語学留学。帰国後、韓国観光公社東京支社等の勤務を経て、財団法人松下政経塾に 14 期生として入塾。在塾時に埼玉県狭山市で開善塾教育相談研究所を設立した塾長金澤純三氏（故人）に出会い、不登校・ひきこもりの青少年へのアウトリーチ（訪問相談）を学び、現在に至る。

文部科学省不登校に関する調査研究協力者会議委員、

埼玉県教育委員(委員長、教育長職務代理者)、

茨城県就学前教育・家庭教育推進会委員・訪問型支援スーパーバイザー等。

令和 7 年度は全国教育研究所連盟及び子ども家庭庁の委託研究・事業(兵庫県丹波市)に参画。

産経新聞解答乱麻コラム、読売新聞教育相談メール回答者、NHK 教育テレビ出演等。

資格 公認心理師

趣味 ドライブ・温泉巡り・読書・映画

特技 韓国語

〈著書〉

・『生徒指導提要改訂 解説とポイント』ミネルヴァ書房、2023 年（共著）

〈その他〉

開善塾では、全国どこにでもアウトリーチ(訪問相談)を行っています。また、群馬県神流町にある元小学校の校舎で、ほぼ毎月、体験宿泊活動も行っています。親元を離れ、仲間と共に寝食を共にする経験を重ねることで、ひきこもっていた子どもたちが学校や社会に復帰しています。

毎年、夏休みに教育相談実技研修会を開催しており、今年で 36 年目を迎えます。生徒指導、教育相談の技法を学びながら、学校文化を守る教師という仕事の奥深さについて、次世代の先生方に伝えていきたいと考えています。

第 36 回は 2026 年 8 月 6 日～8 日(於オリンピックセンター)を予定しています。

詳細はホームページにて <https://kaizenjuku.org>

中学校で不登校を経験した生徒で、高校入学後に順調に通える子どもがいる一方、通信制高校等への進路変更を余儀なくされるケースは年々増える一方です。生徒とこのころのキャッチボールができる教育相談の実際とは。事例から考えたいと思います。

◇研修講座2

演 題 「子どものもめごと解決スキル ——メディエーション——」

講 師 北海商科大学商学部 准教授 益子 洋人 氏

〈略歴〉

明治大学大学院文学研究科 博士後期課程修了、博士（人間学）

栃木県スクールカウンセラー、明治大学文学部助教、北海道教育大学准教授等を経て、現在、北海商科大学准教授。公認心理師、臨床心理士・上級教育カウンセラー・認定ピアメディエーター。

日本カウンセリング学会「学校カウンセリングー松原記念賞」（2013 年）、日本学校メンタルヘルス学会「最優秀論文賞・中島一憲記念賞」（2017 年）、日本カウンセリング学会「奨励賞」（2018 年）を受賞。

座右の銘は、「甘え合い、支え合い」。

〈著書〉

- ・『教師のための子どものもめごと解決テクニック』金子書房、2018 年

〈編著〉

- ・『ガイドブック あつまれ！ みんなで取り組む教育相談』明石書店、2022 年
- ・『スクールカウンセラーのための主張と交渉のスキル』金子書房、2024 年

生徒にとって、他者との衝突と、その解決は、自他の区別と健全なアイデンティティを発達させるための重要な機会です。そのため、教師には、生徒が安全に衝突するのを応援するテクニックが求められます。この講演では、その一つであるメディエーションをご紹介します。

◇研修講座3（対面のみ オンライン配信なし）

講義・演習 「『チーム支援』に求められるファシリテーションの力 ——ホワイトボード・ミーティング®を活用したケース会議——」

講 師 北海道教育大学釧路校 地域学校教育実践専攻 発達教育実践分野 特別支援教育研究室 准教授 田 中 雅 子 氏

〈略歴〉

元東京都立特別支援学校主任教諭・特別支援教育コーディネーター

2022 年 4 月から現職。

公認心理師、特別支援教育士（S.E.N.S）、臨床発達心理士、学校心理士、

ホワイトボード・ミーティング®認定講師、認定ワークショップデザイナー

〈著書〉（特別支援教育・ファシリテーション関連）

- ・『ホワイトボード・ミーティング®でつくる「個別の指導計画」』特別支援教育の実践情報 2025 年 4 月号～ 明治図書（共著）
- ・『特別支援教育コーディネーターのオシゴトの悩みを解決します！』実践みんなの特別支援教育 2024 年 4 月号～2025 年 3 月号 Gakken
- ・『ホワイトボード・ミーティング®でファシリテーターになろうー特別支援教育編』株式会社ひとまち、2021 年（共著）
- ・『通常学級で活かす特別支援教育概論』ナカニシヤ出版、2021 年（共著）
- ・『現代の特別ニーズ教育』文理閣、2020 年（共著）

教育相談においてチーム支援がキーワードになっています。関係者が一堂に会しただけではチーム支援になりません。その場にはファシリテーションが必要です。ファシリテーションの手法の一つであるホワイトボード・ミーティング®を活用したケース会議の演習を通して、ファシリテーションにチャレンジしましょう。

8 申込と参加料の納付

(1) 参加料 3、000 円

※学生の方は1、000 円 [ホームページからではなくメール (kousouken2022@gmail.com) で申し込み、参加料は当日受付にてお支払いください]

(2) 申込方法 北海道高等学校教育相談研究会(道高相研)のホームページ

<http://www.kousouken.hokkaido-c.ed.jp/> のトップページから個人で申込をしてください。

日本旅行のホームページにリンクしています。

※申し込みの際に、対面・オンラインの選択をお願いいたします。

※申し込みの際に、連絡や資料データを受信するためのメールアドレスを正確にご記入ください

(例年、アドレス間違いで連絡や資料を受け取れないケースがあります。また、PDF ファイルを閲覧可能な端末のアドレスを登録してください) 。

※対面参加の方は、お弁当の申し込みが可能です。必要な方は申し込みの際に選択ください。

(3) 申込期間 令和7年 11 月 17 日(月)から 12 月 15 日(月)まで

(4) 納付方法 参加料の納付は、指定のコンビニエンスストアで振込期限をご確認の上、納付してください (期限内に参加料が納付されないと申し込みが成立しませんのでご注意ください) 。

(5) その他 対面参加会場は、メイン会場の定員が 120 名程度となっております。お申込みの数によっては、別室で同時中継の映像視聴となる場合もありますので、あらかじめご了承ください。

〈問い合わせ先〉

北海道高等学校教育相談研究会 事務局長 奥田 尚(北海道札幌東商業高等学校 教諭)

電話 011-891-2311(北海道札幌東商業高等学校) E-Mail: kousouken2022@gmail.com

※ 確実なやりとりのため、メールにてご連絡ください。

※ 電話による問合せは、9:00~16:50 の間にお願いします。